

「救急に関する世論調査」の概要

平成 29 年 9 月
内閣府政府広報室

調査対象	全国の日本国籍を有する 18 歳以上の者 3,000 人 有効回収数 1,790 人 (回収率 59.7%)
調査期間	平成 29 年 7 月 13 日 ～ 7 月 23 日 (調査員による個別面接聴取)
調査目的	救急に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。
調査項目	<ol style="list-style-type: none">1 救急車の利用について2 救急車の適正な利用の推進について3 119 番通報・救急隊による緊急性の判断について4 緊急性が低い救急車の利用について5 応急手当の普及促進について6 救急行政について
調査実績	「消防・救急に関する世論調査」(平成 15 年 5 月) (平成 18 年度の調査から、調査対象者に調査主体が「内閣府」であることを提示した上で実施。)

更問 救急通報した理由

更問 (問1で「ある」と答えた方(803人)に)

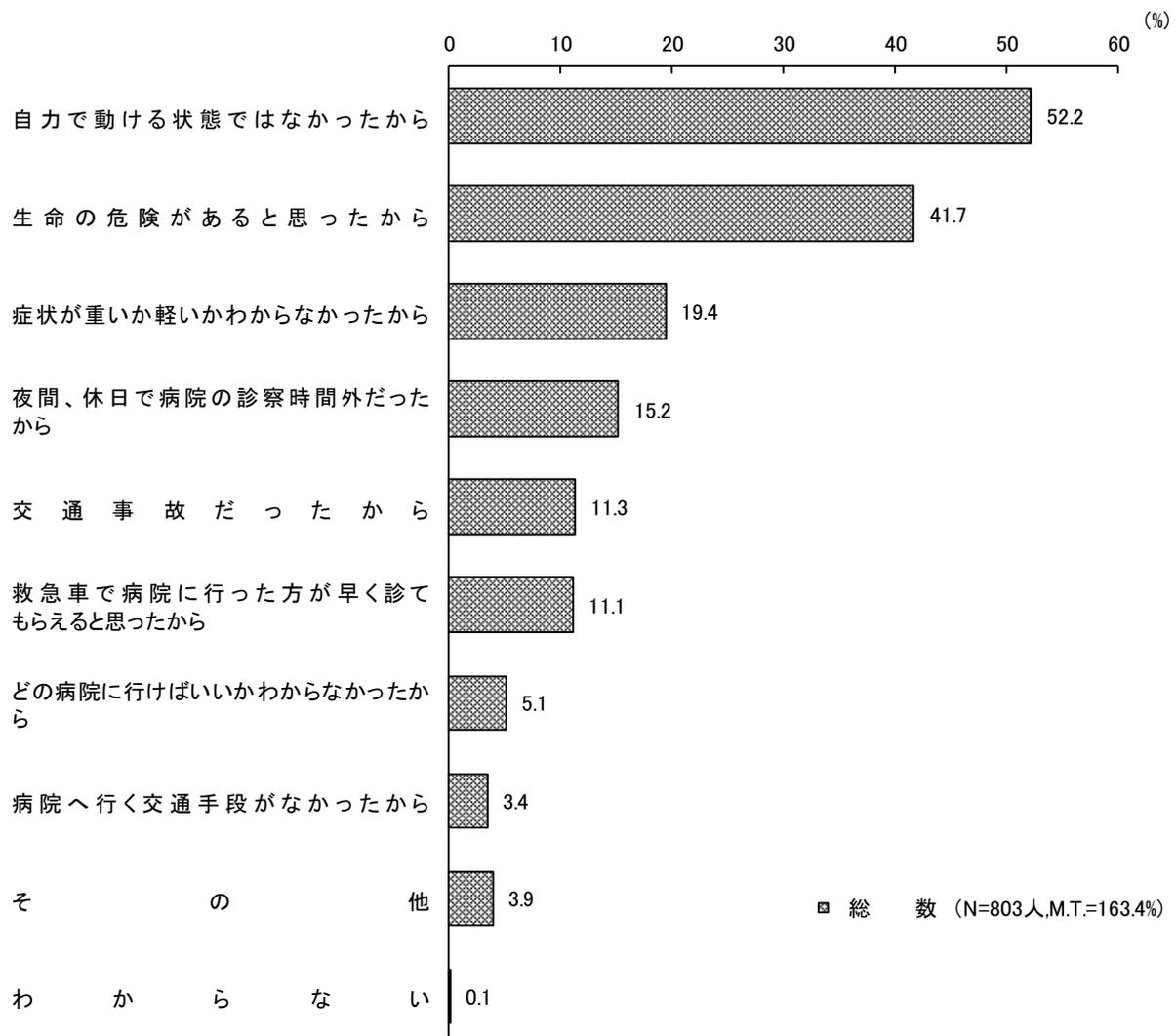
あなたが救急車を呼んだのや、誰かに呼んでもらったのは、どのような理由からですか。
この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位4項目)

29年7月

- ・自力で動ける状態ではなかったから 52.2%
- ・生命の危険があると思ったから 41.7%
- ・症状が重いか軽いかわからなかったから 19.4%
- ・夜間、休日で病院の診療時間外だったから 15.2%

(救急車を呼んだことや、呼んでもらったことが「ある」と答えた者に、複数回答)



2. 救急車の適正な利用の推進について

(1) 自己判定ツールの認知度

問2 あなたやあなたの家族が急な病気やけがをしたときに、救急車を呼んだほうがいいか、自分で病院を受診すればいいかを判断するために、ガイドブックや、専門家に相談できる電話相談窓口があります。この中から、あなたが知っているものをいくつでもあげてください。(複数回答)

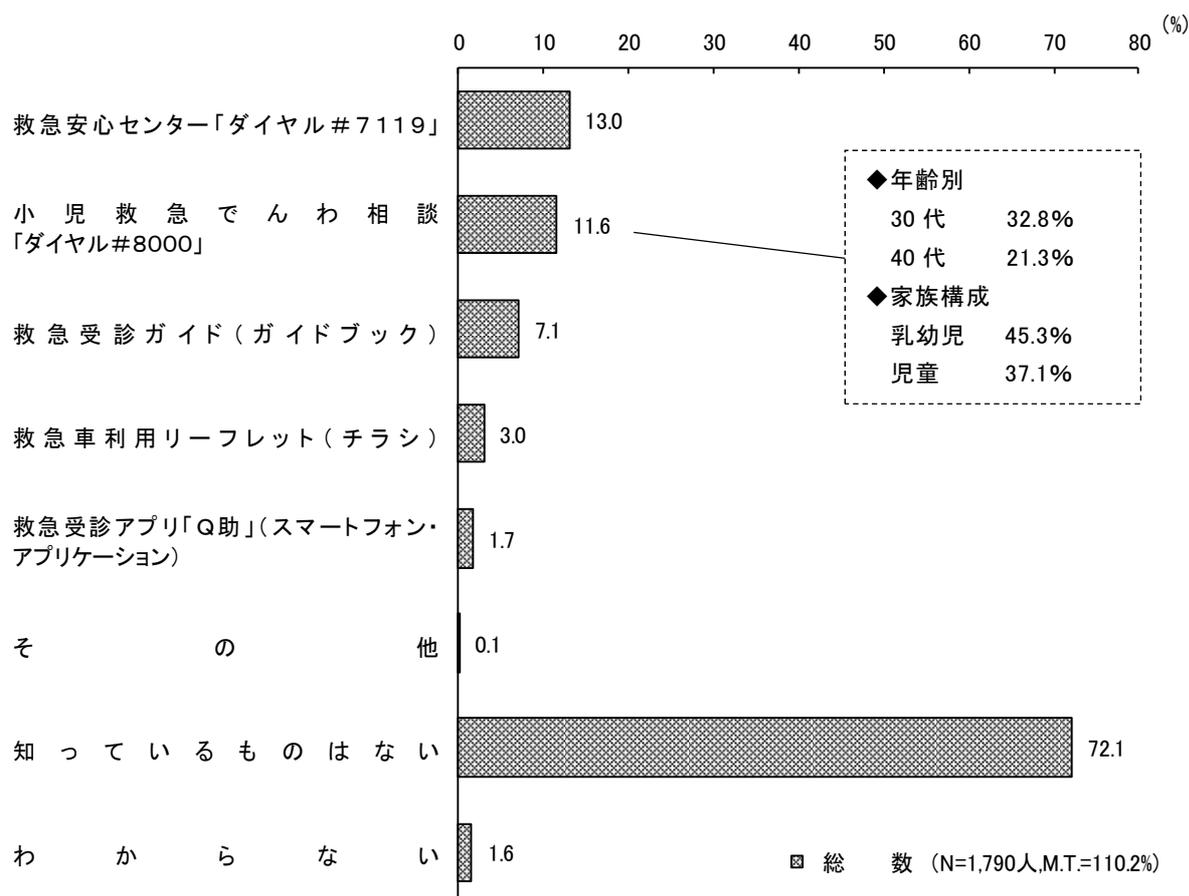
(上位2項目)

29年7月

- ・救急安心センター「ダイヤル#7119」 13.0%
- ・小児救急でんわ相談「ダイヤル#8000」 11.6%

- ・知っているものはない 72.1%

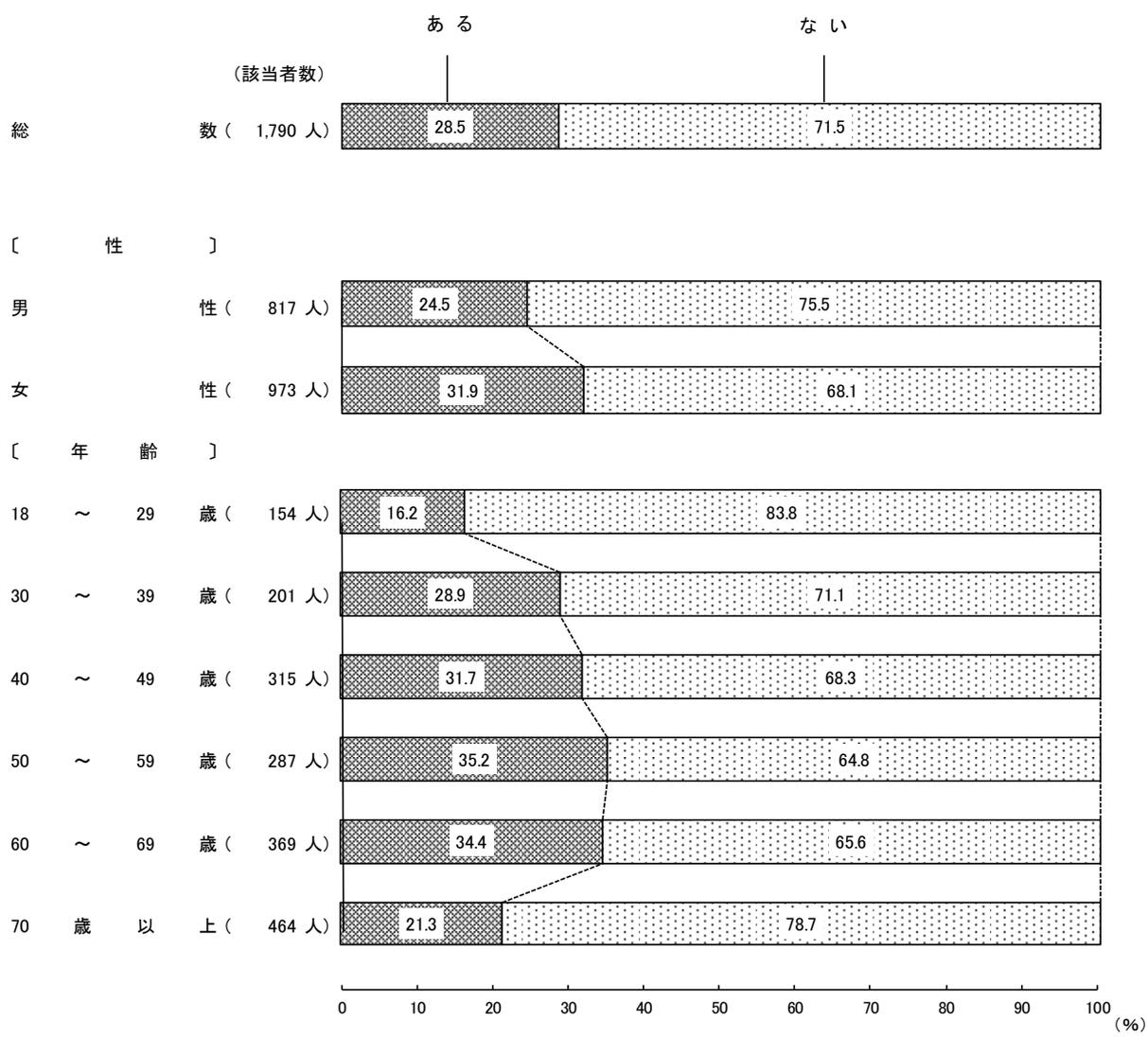
(複数回答)



(2) 救急通報を迷ったことの有無

問3 あなたやあなたの家族が急な病気やけがで、救急車を呼ぶか、呼ばないか迷ったことがありますか。

・ある 29年7月
28.5%
・ない 71.5%



更問 通報を迷ったときどうしたか

更問 (問3で「ある」と答えた方(510人)に)
 救急車を呼ぶか、呼ばないか迷ったとき、あなたはどうしましたか。
 この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位2項目)

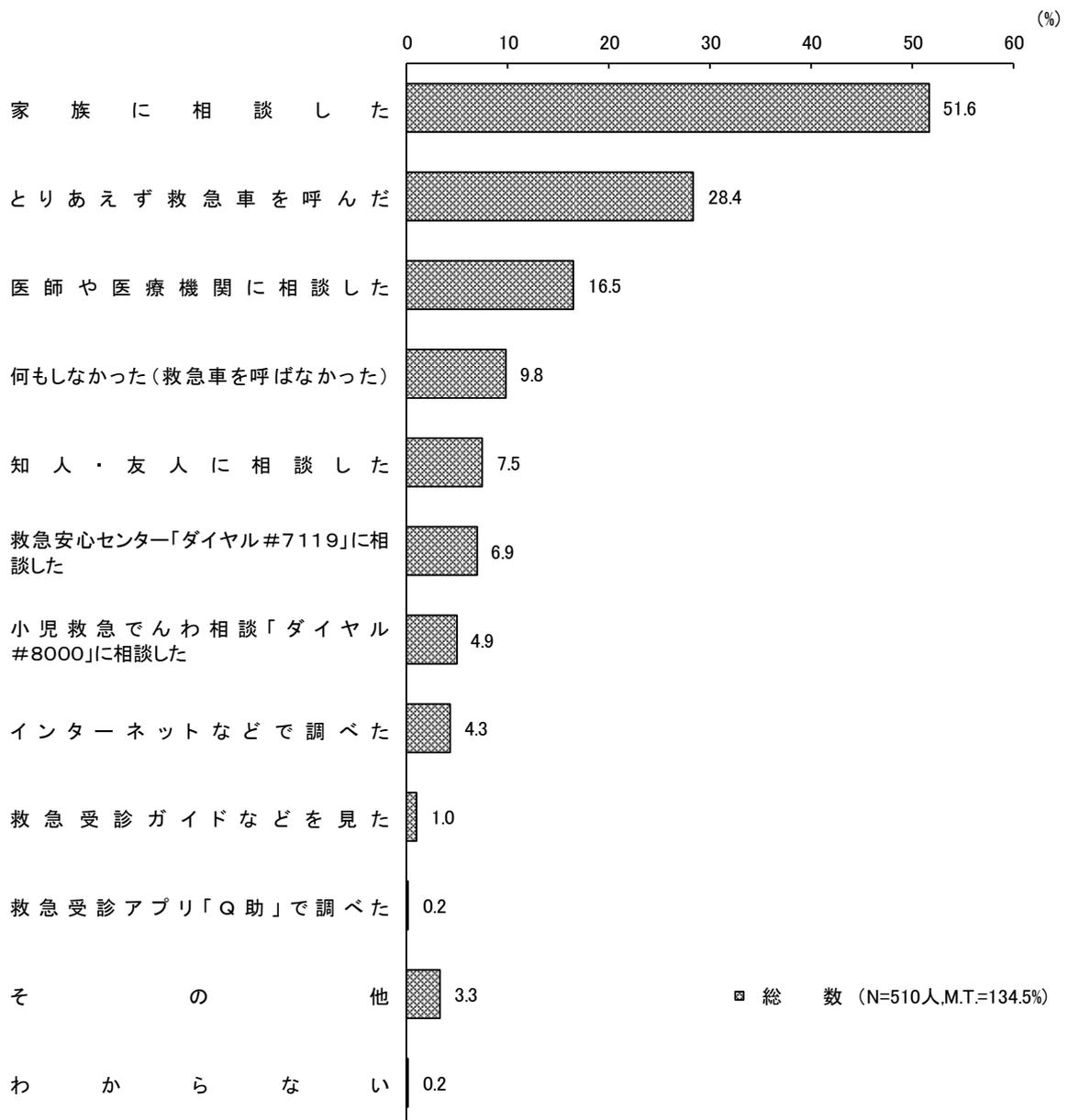
29年7月

51.6%

28.4%

- ・家族に相談した
- ・とりあえず救急車を呼んだ

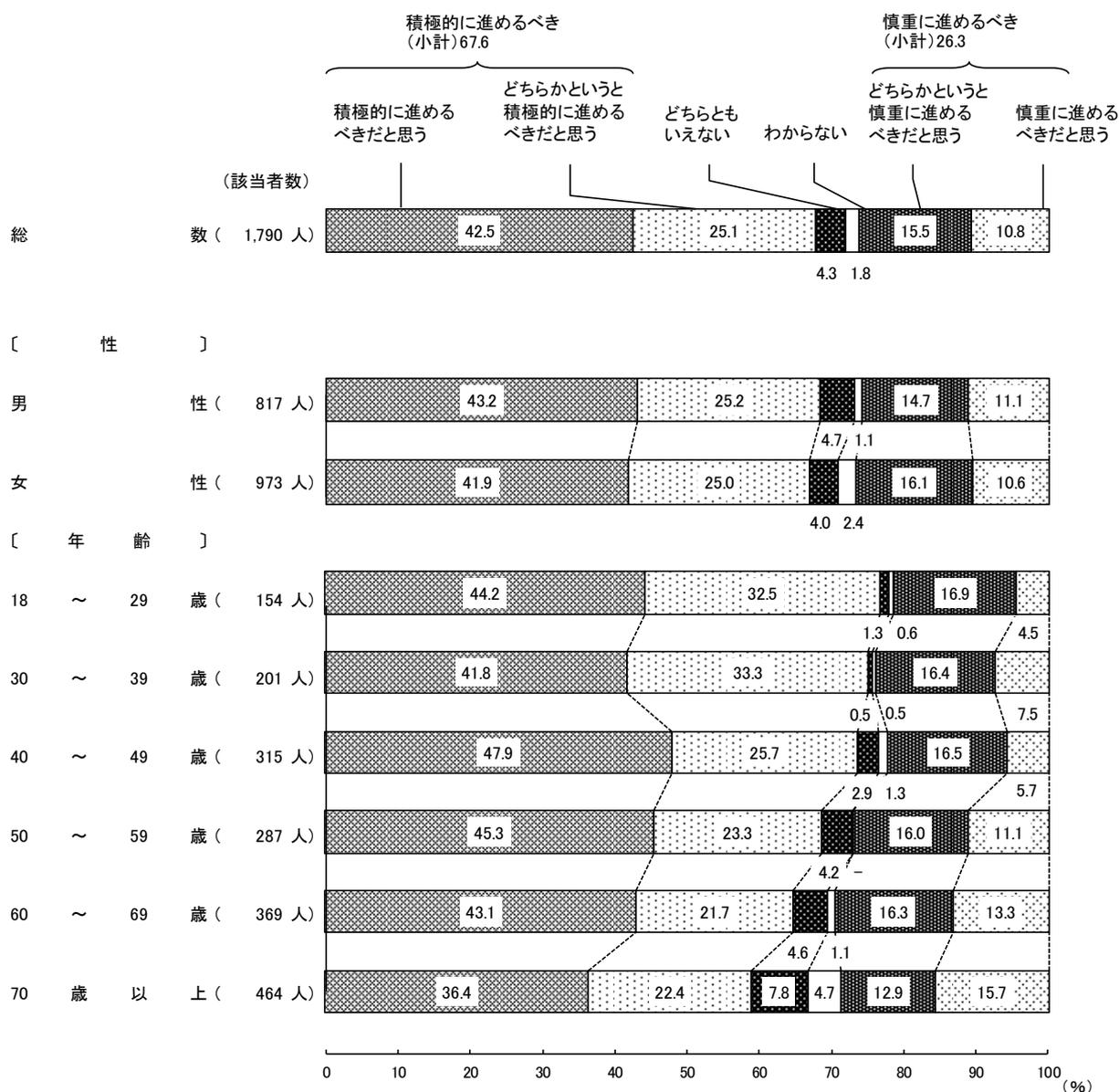
(救急車を呼ぶか、呼ばないか迷ったことが「ある」と答えた者に、複数回答)



(3) 緊急度判定の取り組み推進への考え方

問4 あなたは、今後、症状が軽く救急車の必要が低い方に自分で病院を受診していただく取り組みをどのように進めるべきだと思いますか。この中からあなたのお考えに最も近いものを1つお答えください。(※資料1)

<u>積極的に進めるべき (小計)</u>	29年7月 67.6%
・積極的に進めるべきだと思う	42.5%
・どちらかという積極的に進めるべきだと思う	25.1%
<u>慎重に進めるべき (小計)</u>	26.3%
・どちらかという慎重に進めるべきだと思う	15.5%
・慎重に進めるべきだと思う	10.8%



(4) 自己判定ツールのメリット

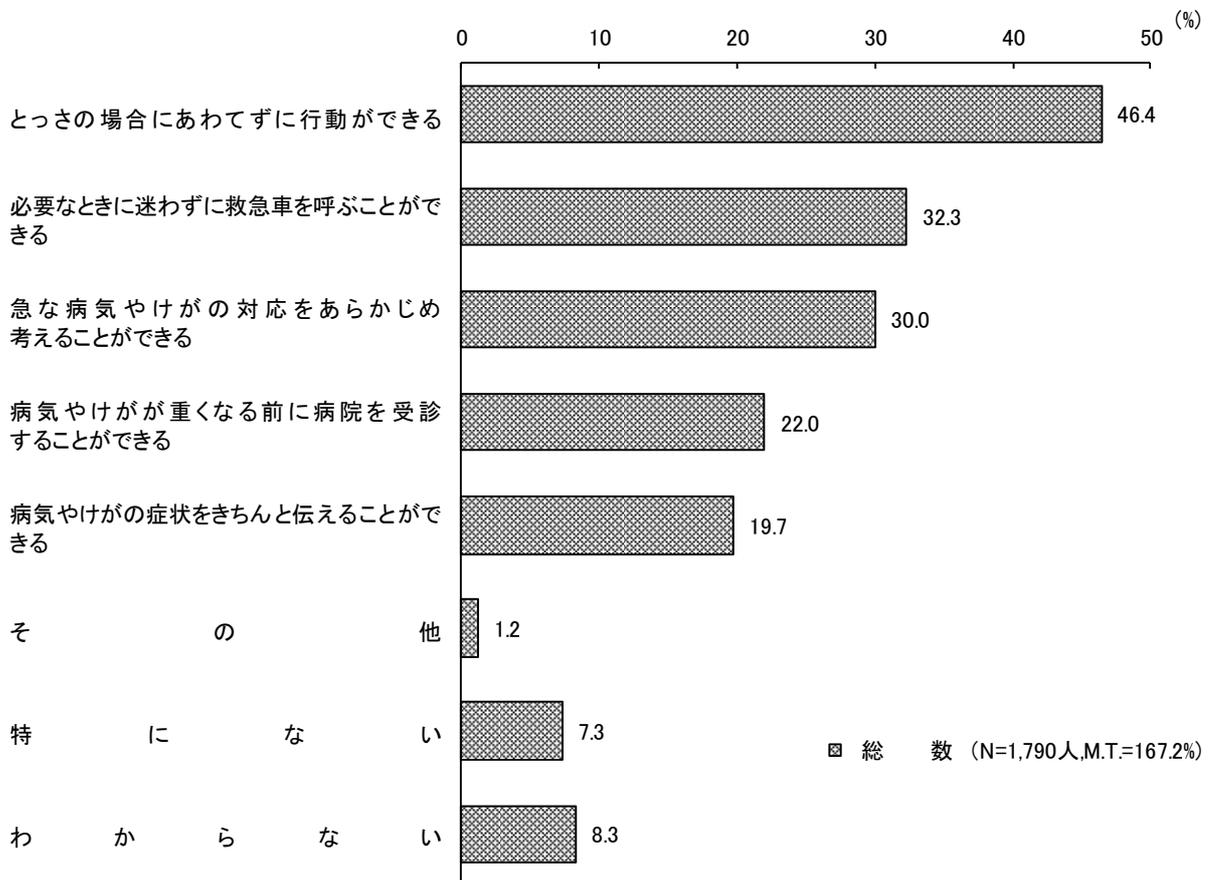
問5 あなたは、救急車を呼んだ方がいいかどうかを、「自分で」判断するために使える救急受診ガイドや救急車利用リーフレット、スマホ・アプリが、どのような役に立つと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位3項目)

29年7月

- ・とっさの場合にあわてずに行動ができる 46.4%
- ・必要なときに迷わずに救急車を呼ぶことができる 32.3%
- ・急な病気やけがの対応をあらかじめ考えることができる 30.0%

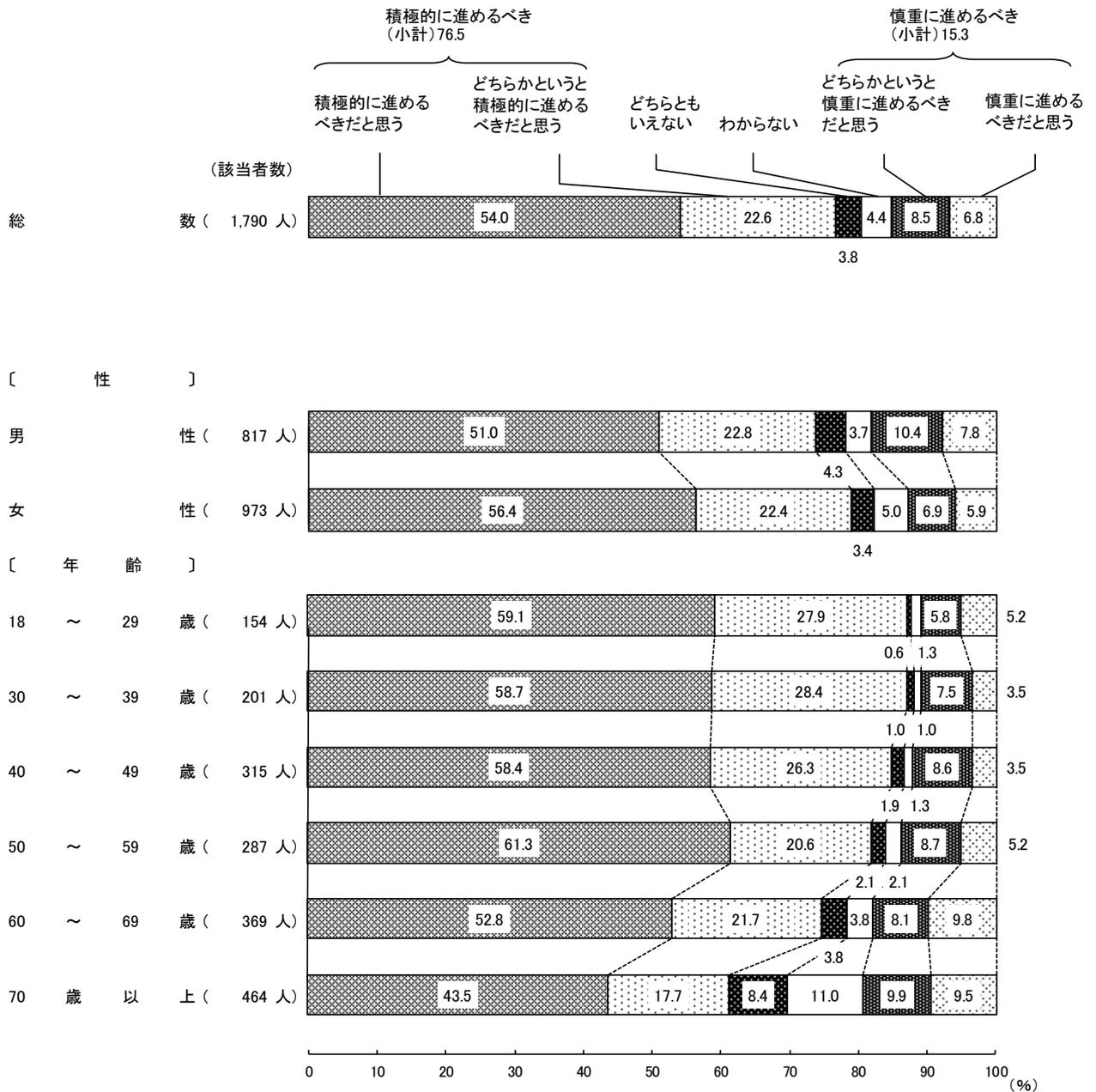
(複数回答)



(5) 救急安心センター（#7119）推進への考え方

問6 あなたは、今後、救急安心センター「ダイヤル#7119」をどのように進めるべきだと思いますか。この中からあなたのお考えに最も近いものを1つお答えください。

	29年7月
<u>積極的に進めるべき（小計）</u>	<u>76.5%</u>
・積極的に進めるべきだと思う	54.0%
・どちらかという積極的に進めるべきだと思う	22.6%
<u>慎重に進めるべき（小計）</u>	<u>15.3%</u>
・どちらかという慎重に進めるべきだと思う	8.5%
・慎重に進めるべきだと思う	6.8%

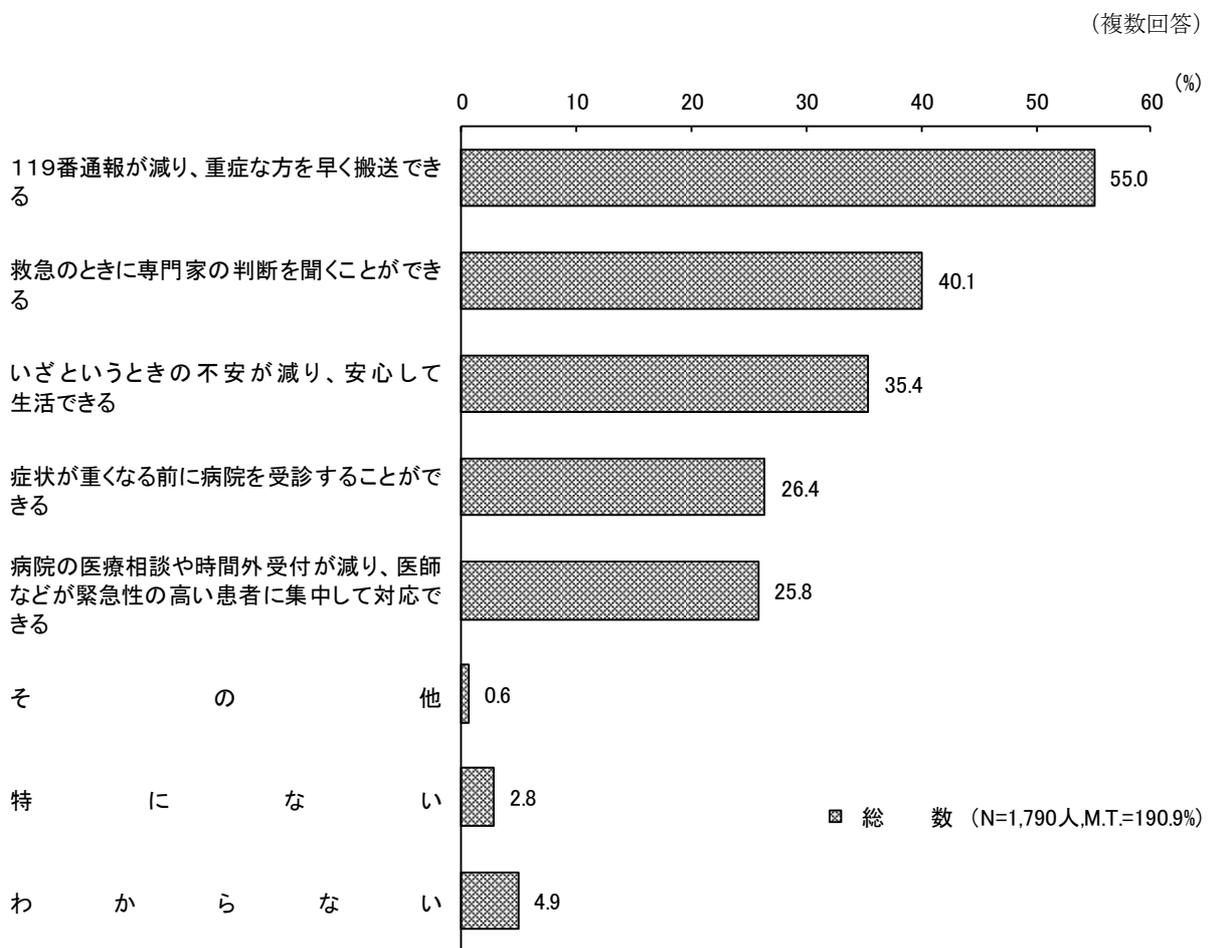


(6) 救急安心センター（#7119）のメリット

問7 あなたは、救急安心センター「ダイヤル#7119」が全国に普及することでどのようなメリットがあると思いますか。この中からいくつでもあげてください。（複数回答）

(上位3項目)
平成29年7月
55.0%
40.1%
35.4%

- ・119番通報が減り、重症な方を早く搬送できる
- ・救急のときに専門家の判断を聞くことができる
- ・いざというときの不安が減り、安心して生活できる

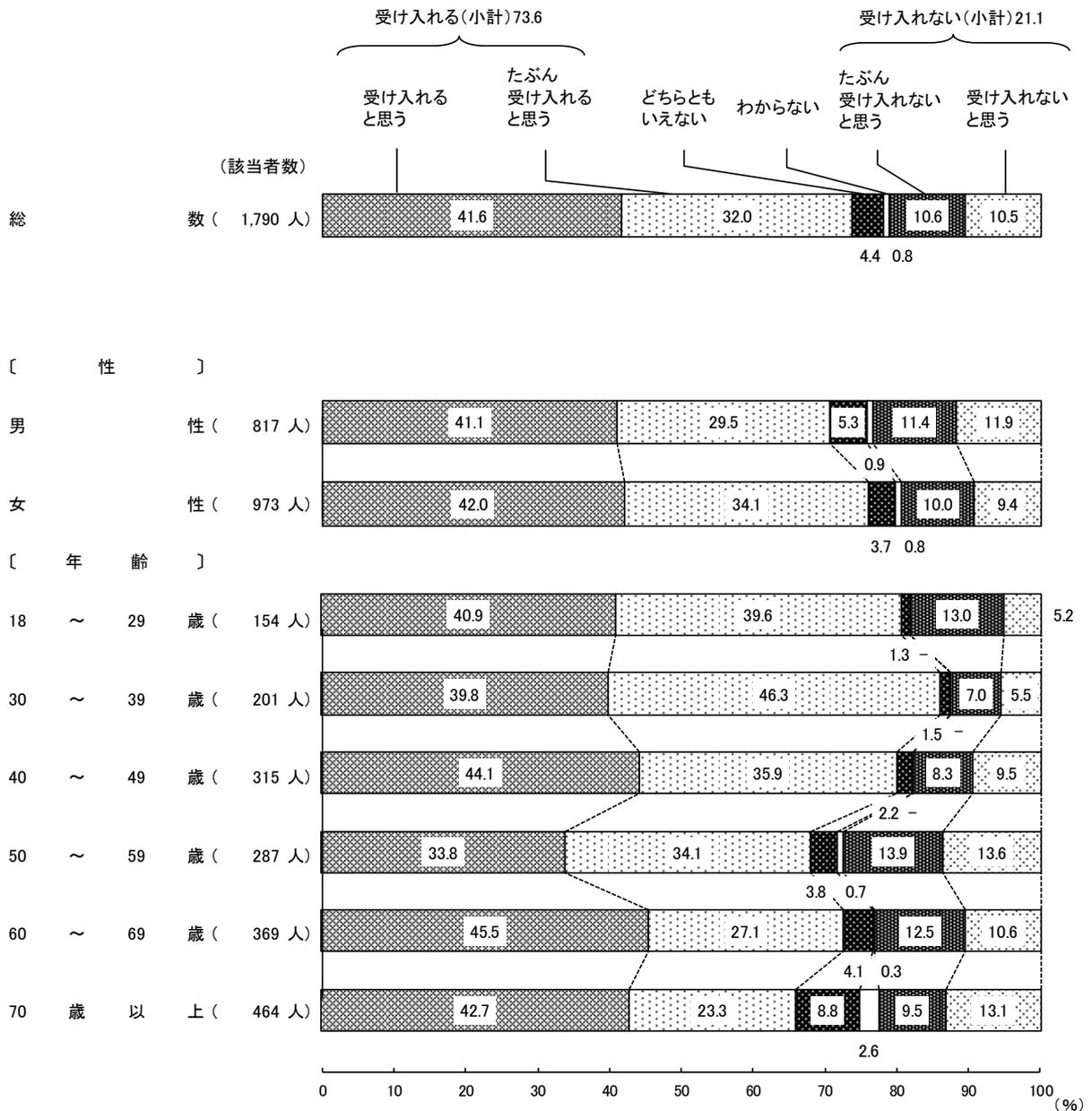


3. 119番通報・救急隊による緊急性の判断について

(1) 119番による緊急性判断を受け入れるか

問8 あなたが救急車を呼んだときに、119番窓口から、症状が軽いため自分で病院を受診するよう勧められたら、受け入れると思いますか、それとも受け入れないと思いますか。この中からあなたのお考えに最も近いものを1つお答えください。

<u>受け入れる (小計)</u>	29年7月
・受け入れると思う	73.6%
・たぶん受け入れると思う	41.6%
<u>受け入れない (小計)</u>	21.1%
・たぶん受け入れないと思う	10.6%
・受け入れないと思う	10.5%



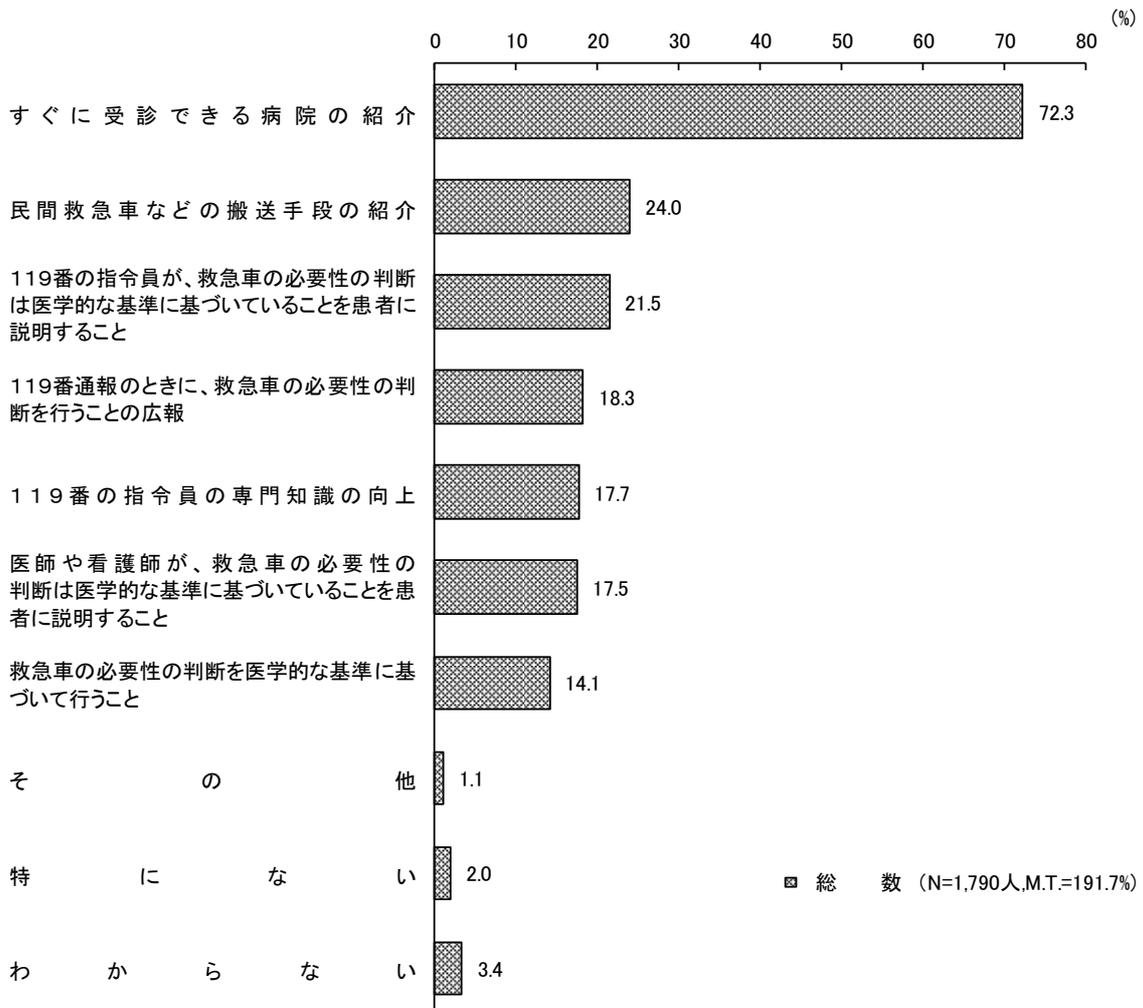
(2) 119番による緊急性判断の条件

問9 救急車を呼んだときに、119番窓口が、症状が軽く救急車の必要が低いと判断した方には自分で病院を受診していただく取り組みを進めるためには、どのような条件が必要だと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位6項目)
平成29年7月

- ・ すぐに受診できる病院の紹介 72.3%
- ・ 民間救急車などの搬送手段の紹介 24.0%
- ・ 119番の指令員が、救急車の必要性の判断は医学的な基準に基づいていることを患者に説明すること 21.5%
- ・ 119番通報のときに、救急車の必要性の判断を行うことの広報 18.3%
- ・ 119番の指令員の専門知識の向上 17.7%
- ・ 医師や看護師が、救急車の必要性の判断は医学的な基準に基づいていることを患者に説明すること 17.5%

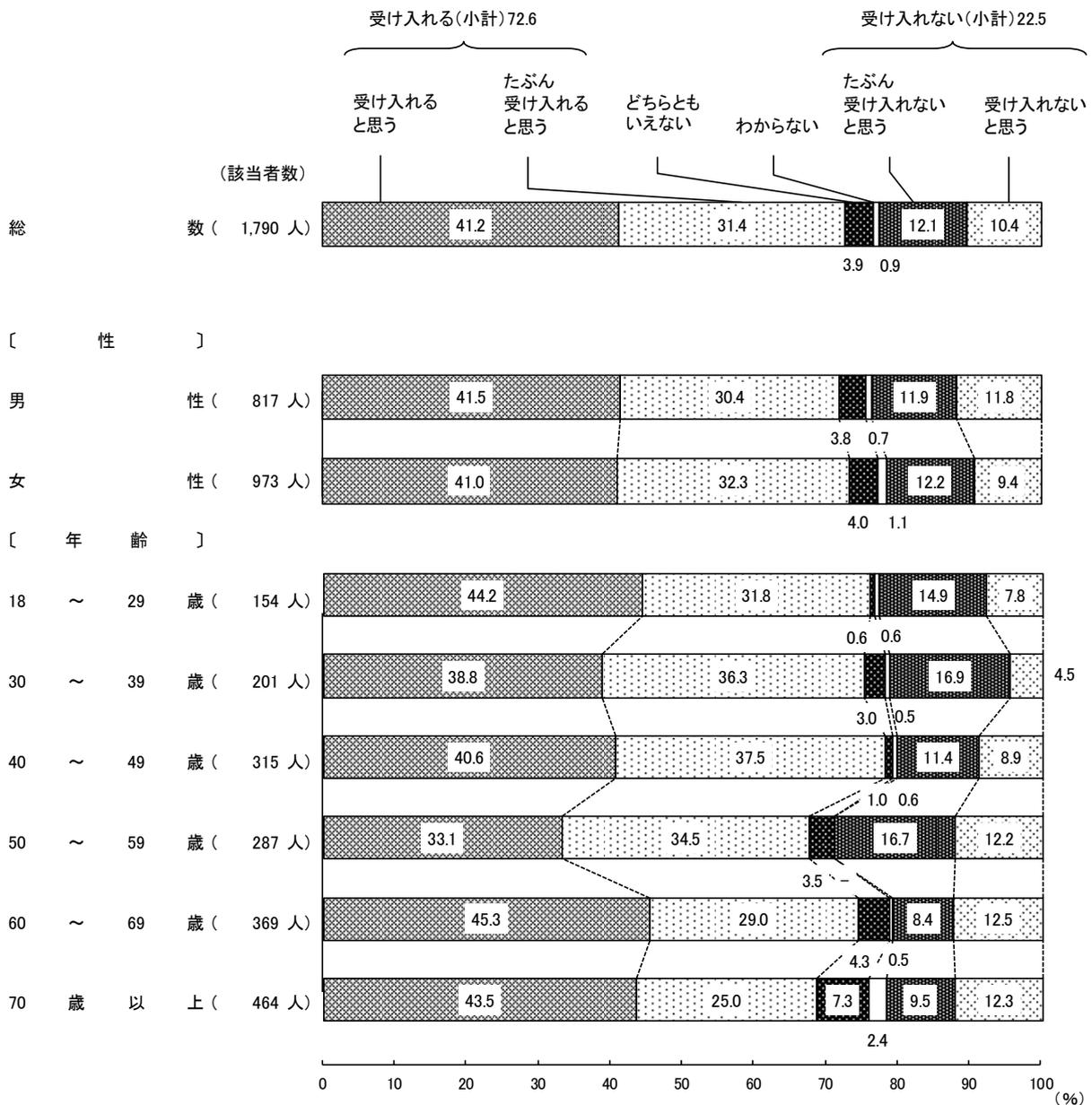
(複数回答)



(3) 救急隊による緊急性判断を受け入れるか

問 10 救急車が現場に到着したときに、救急隊員から症状が軽く救急車の必要が低いため自分で病院を受診するよう勧められたら、受け入れると思いますか、それとも受け入れないと思いますか。この中からあなたのお考えに最も近いものを1つお答えください。

	29年7月
<u>受け入れる (小計)</u>	<u>72.6%</u>
・受け入れると思う	41.2%
・たぶん受け入れると思う	31.4%
<u>受け入れない (小計)</u>	<u>22.5%</u>
・たぶん受け入れないと思う	12.1%
・受け入れないと思う	10.4%

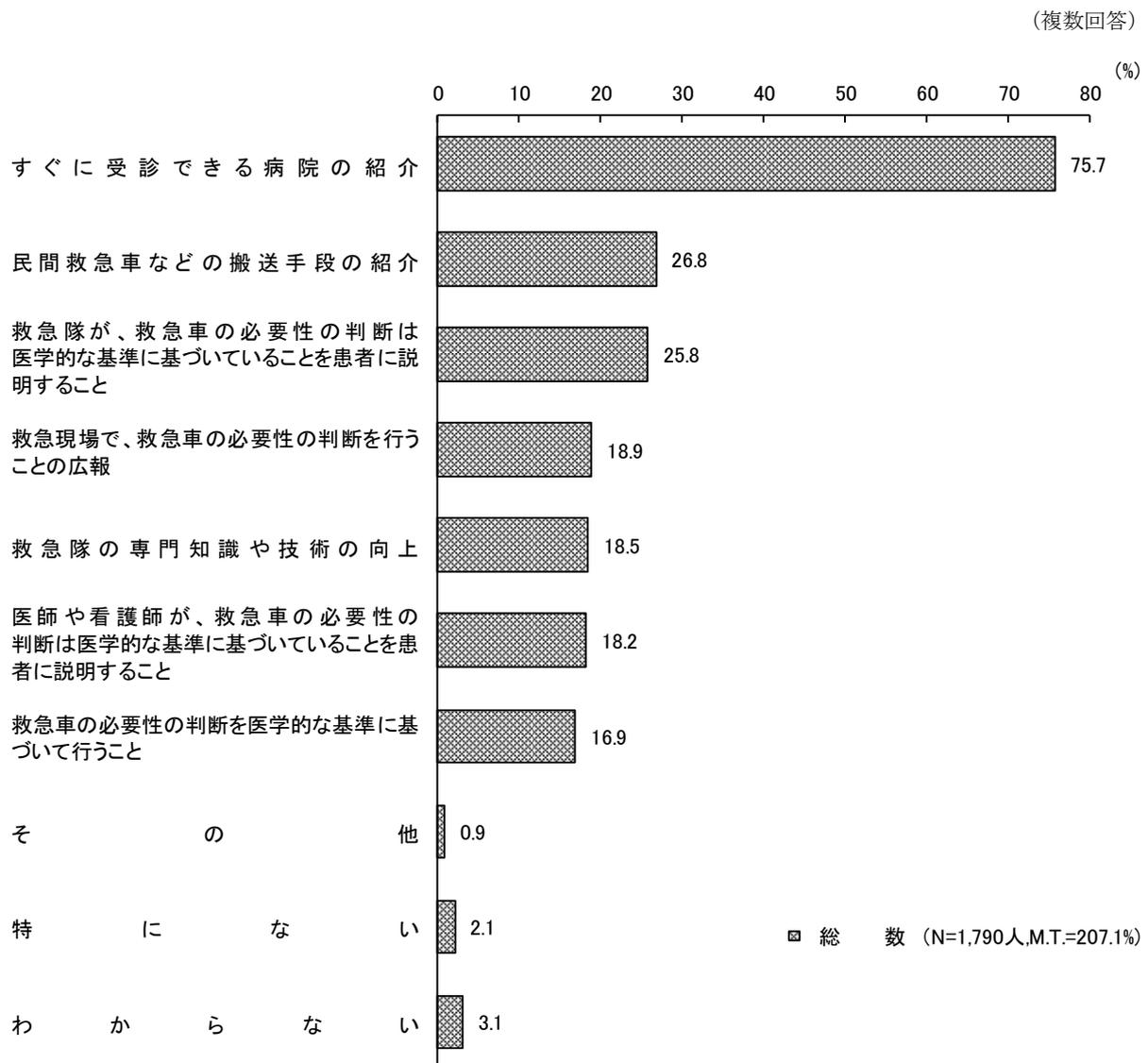


(4) 救急隊による緊急性判断の条件

問 11 救急車が現場に到着したときに、救急隊が、症状が軽く救急車の必要が低いと判断した方に自分で病院を受診していただく取り組みを進めるためには、どのような条件が必要だと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位3項目)
平成 29 年 7 月

- ・ すぐに受診できる病院の紹介 75.7%
- ・ 民間救急車などの搬送手段の紹介 26.8%
- ・ 救急隊が、救急車の必要性の判断は医学的な基準に基づいていることを患者に説明すること 25.8%



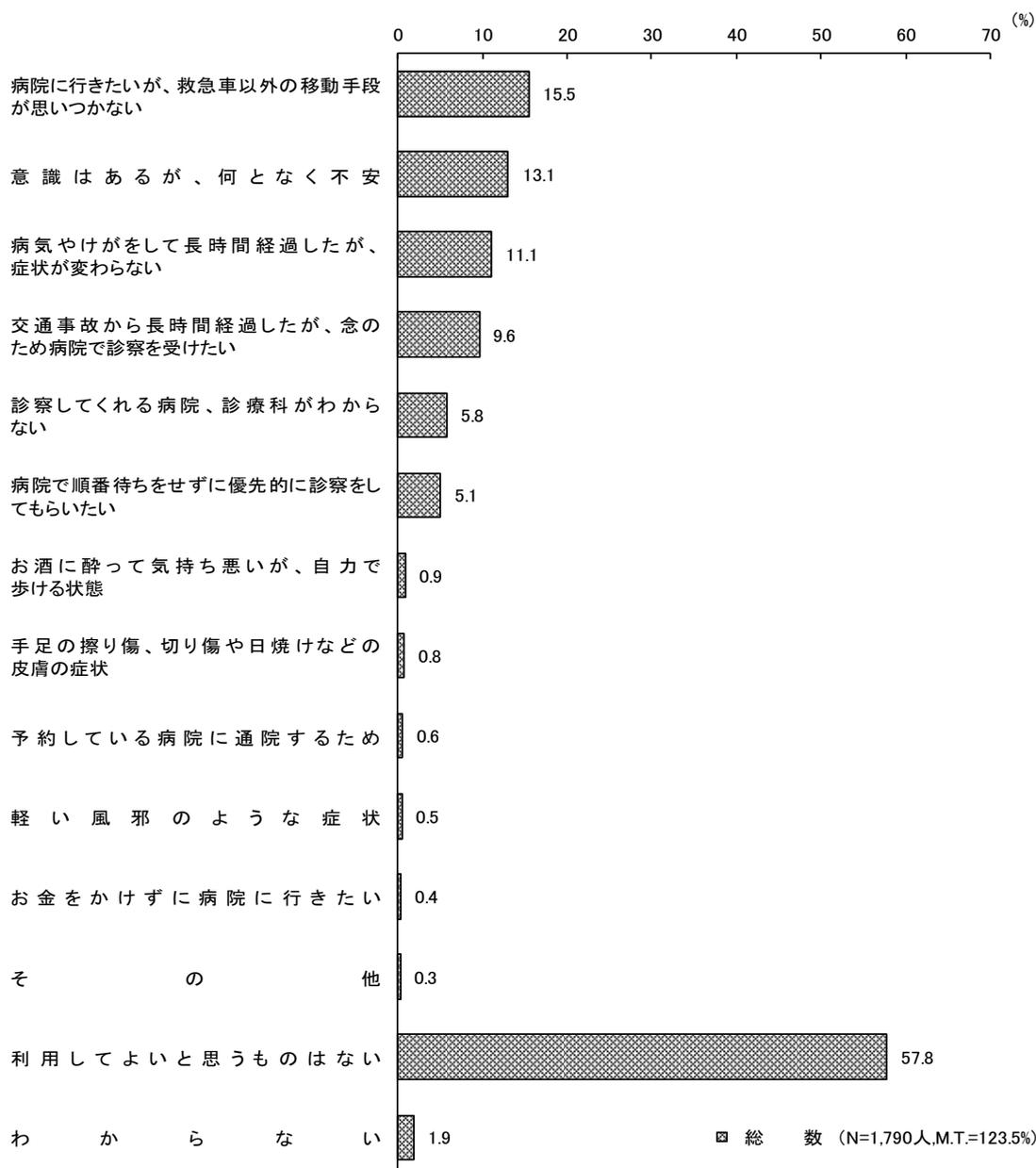
4 緊急性が低い救急車の利用について
救急車を利用してもよいと思う状況

問 12 次のような状況のうち、あなたはどのようなときに救急車を利用してもよいと思いますか。あなたが救急車を利用してもよいと思うものを、この中からいくつでもあげてください。（複数回答）

（上位 3 項目）

- | | |
|-----------------------------|----------|
| | 29 年 7 月 |
| ・病院に行きたいが、救急車以外の移動手段が思いつかない | 15.5% |
| ・意識はあるが、何となく不安 | 13.1% |
| ・病気やけがをして長時間経過したが、症状が変わらない | 11.1% |
| ・利用してよいと思うものはない | 57.8% |

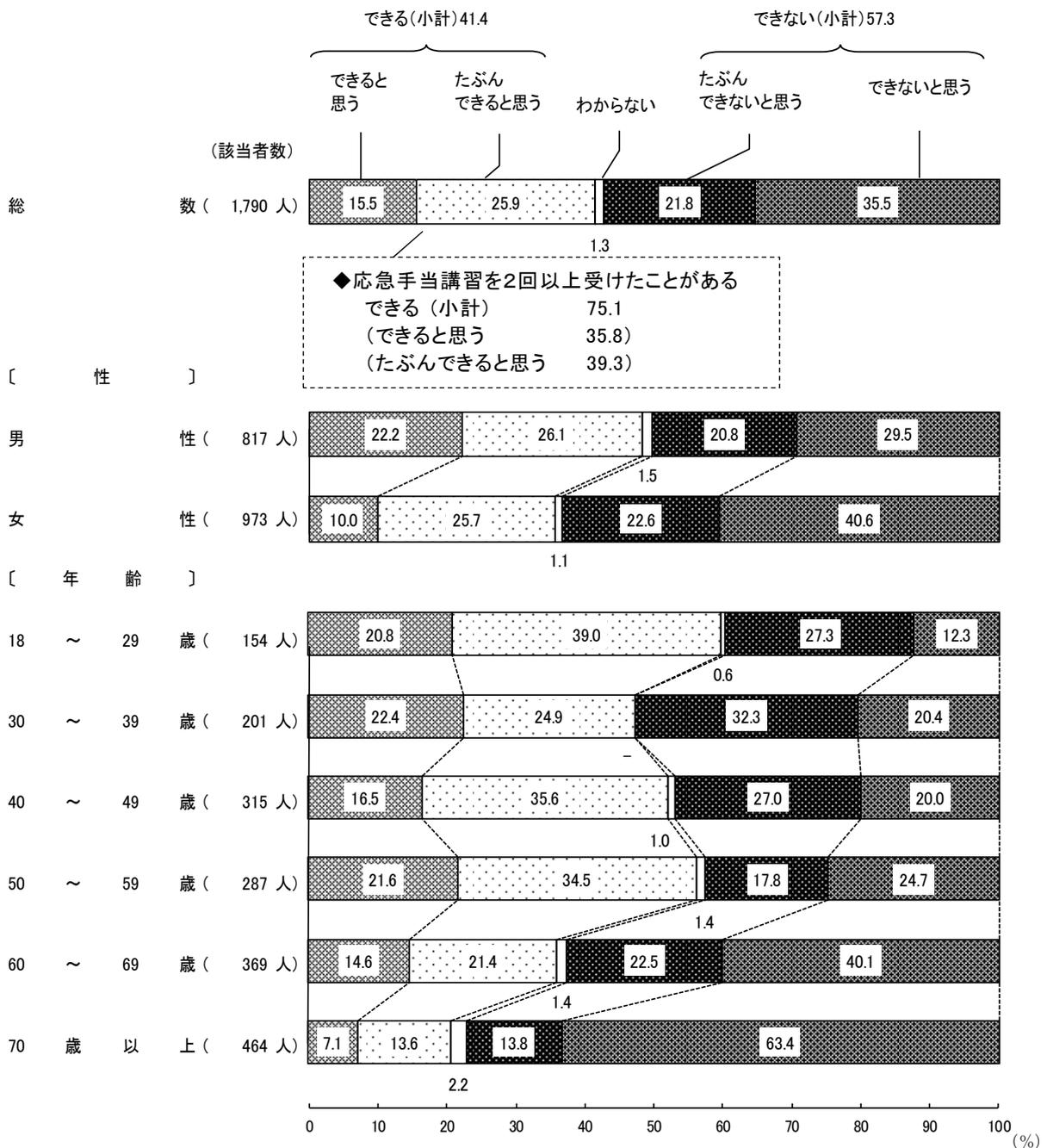
（複数回答）



5 応急手当の普及推進について
 (1) 応急手当ができると思うか

問 13 もしも、あなたの目の前で人が倒れたら、あなたは心臓マッサージや人工呼吸、AEDを使った応急手当ができますと思いますか。この中から1つお答えください。(※資料2)

		29年7月
<u>できる (小計)</u>		<u>41.4%</u>
・できると思う		15.5%
・たぶんできると思う		25.9%
<u>できない (小計)</u>		<u>57.3%</u>
・たぶんできないと思う		21.8%
・できないと思う		35.5%



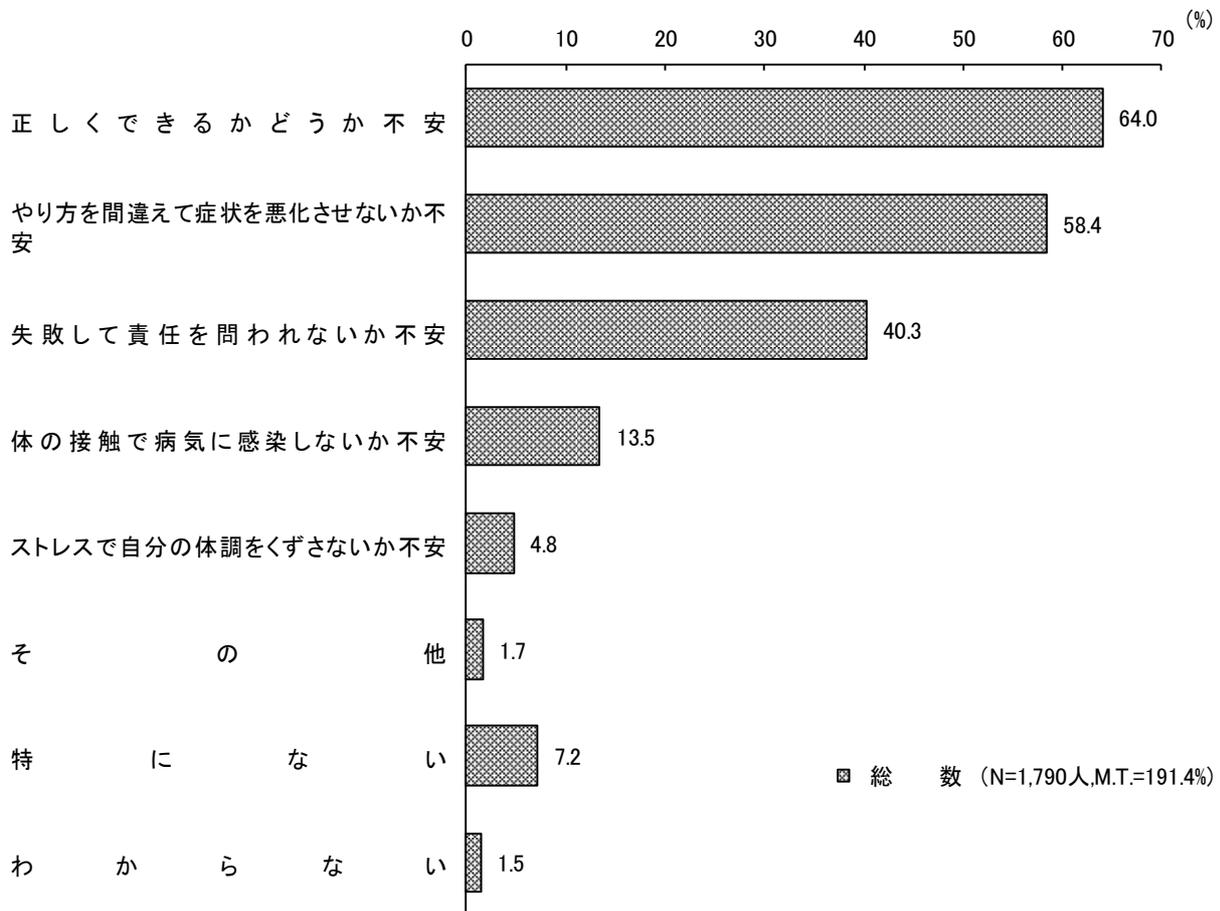
(2) 応急手当で不安に思うこと

問 14 あなたが、実際に応急手当をすることになったら、どのようなことが不安だと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位3項目)

- ・正しくできるかどうか不安 29年7月 64.0%
- ・やり方を間違えて症状を悪化させないか不安 58.4%
- ・失敗して責任を問われないか不安 40.3%

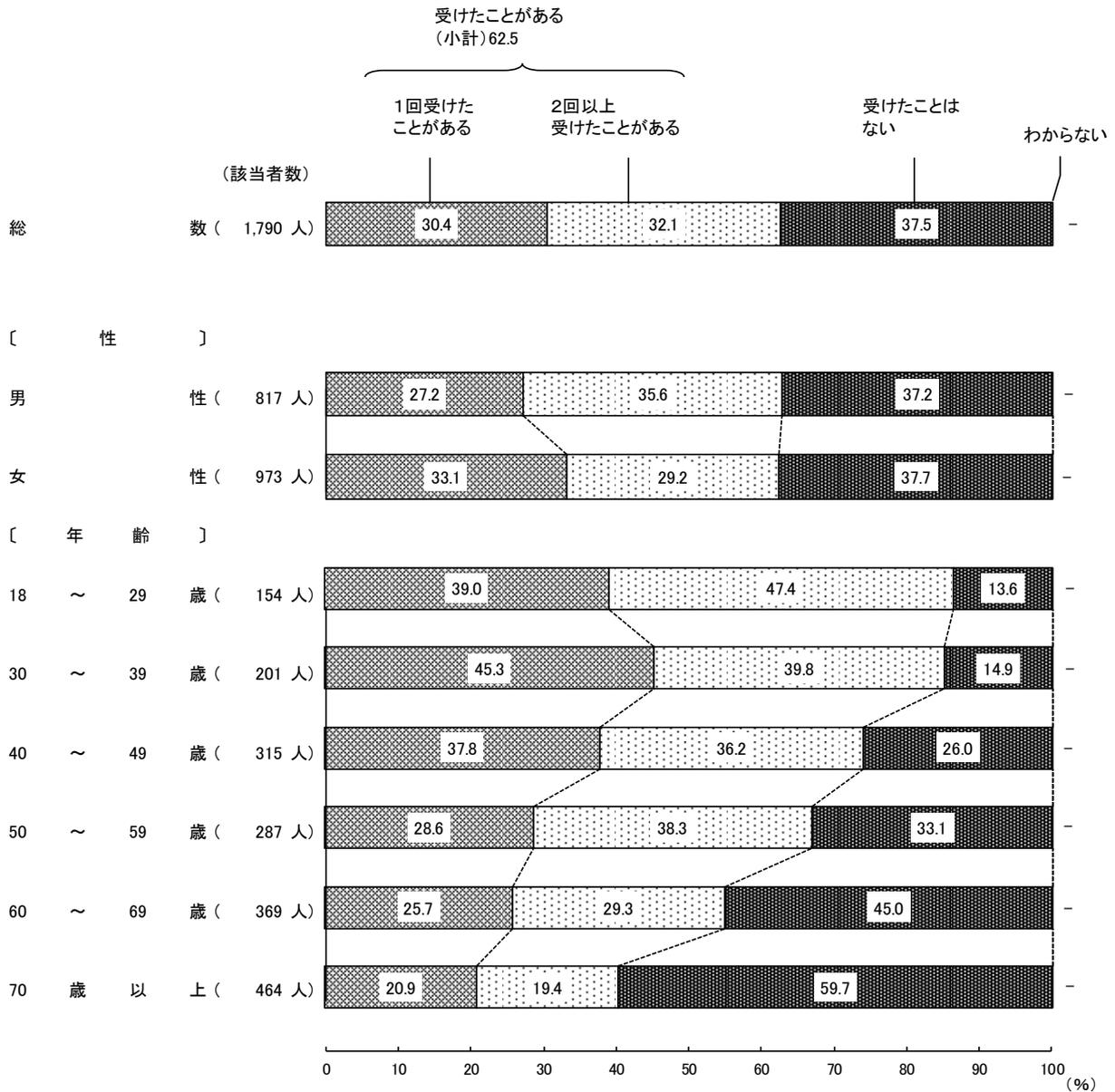
(複数回答)



(3) 応急手当講習の受講の有無

問 15 あなたは、心臓マッサージや人工呼吸、AEDの使い方などの応急手当講習を受けたことがありますか。この中から1つお答えください。

受けたことがある (小計)	29年7月
・ 1回受けたことがある	62.5%
・ 2回以上受けたことがある	30.4%
受けたことはない	32.1%
	37.5%

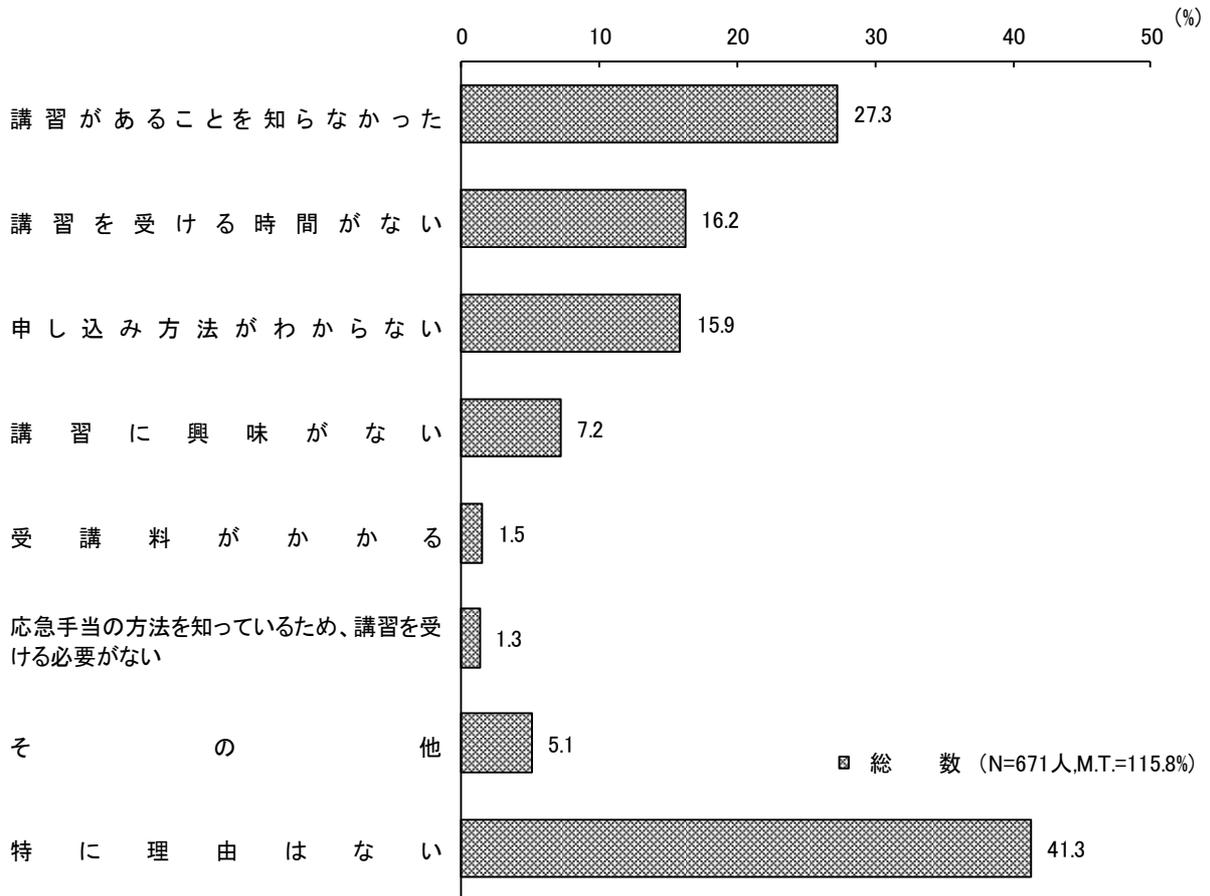


更問 応急手当講習を受けたことがない理由

更問 (問15で「受けたことはない」と答えた方(671人)に)
 応急手当講習を受けたことがないのはどのような理由からですか。この中からいくつかもあげてください。(複数回答)

	(上位3項目)
	29年7月
・講習があることを知らなかった	27.3%
・講習を受ける時間がない	16.2%
・申込み方法がわからない	15.9%
・特に理由はない	41.3%

(応急手当講習を「受けたことはない」と答えた者に、複数回答)



(4) 受けてみたい応急手当講習

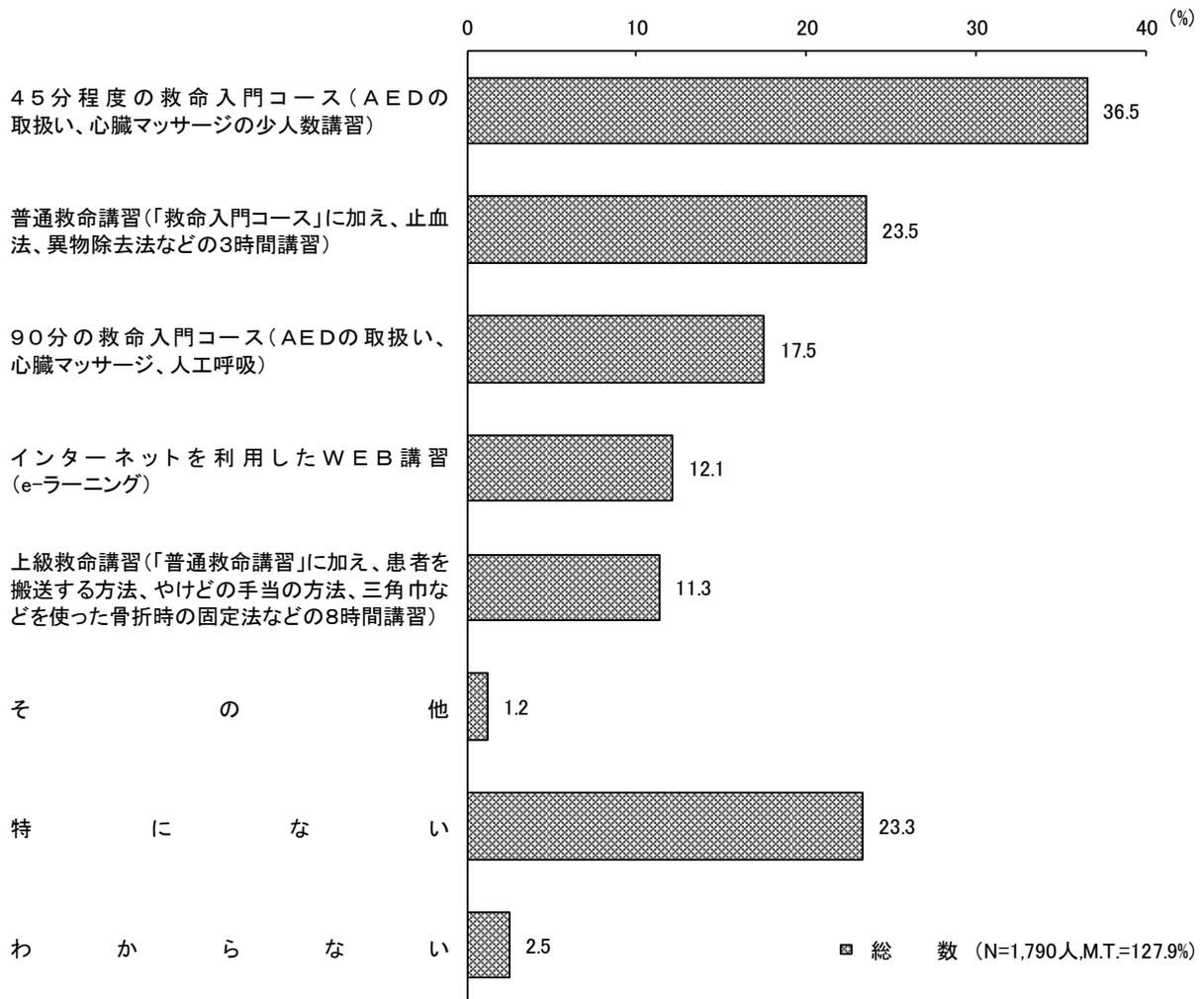
問 16 あなたが、これから応急手当講習を受けるとしたら、どの講習を受けてみたいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位3項目)

29年7月

- ・ 45分程度の救命入門コース(AEDの取扱い、心臓マッサージの少人数講習) 36.5%
- ・ 普通救命講習(「救命入門コース」に加え、止血法、異物除去法などの3時間講習) 23.5%
- ・ 90分の救命入門コース(AEDの取扱い、心臓マッサージ、人工呼吸) 17.5%
- ・ 特にない 23.3%

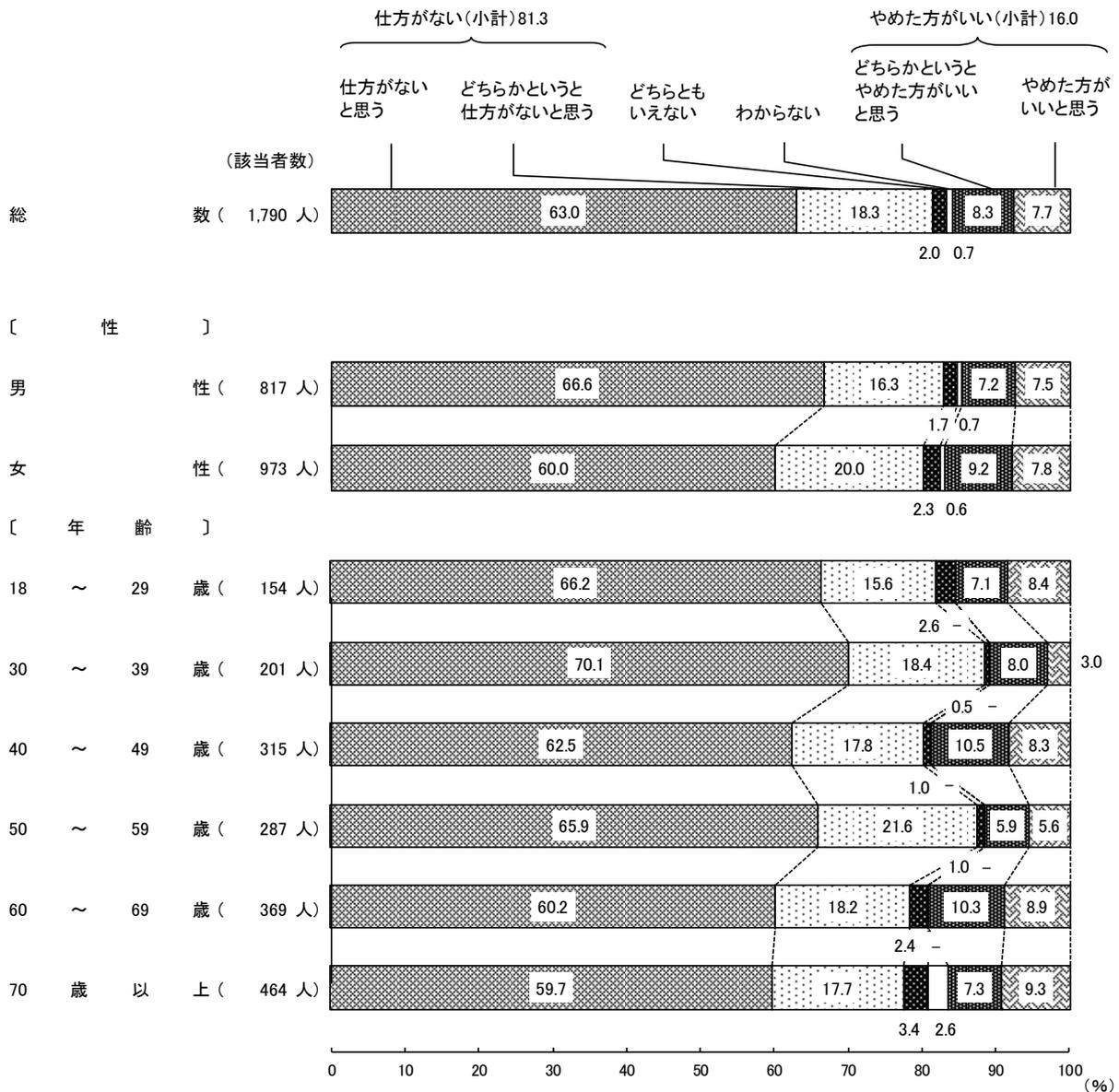
(複数回答)



6. 救急行政について
 (1) 救急隊員の行動について

問 17 救急隊員の出勤回数が増えたため、消防署内で食事をとることができないことがあります。救急隊員がやむを得ず出勤の合間にコンビニや病院で飲食物を購入したり、食事をしたりにすることについて、あなたはどのように思いますか。この中からあなたのお考えに最も近いものを1つお答えください。

	29年7月
<u>仕方がない(小計)</u>	<u>81.3%</u>
・仕方がないと思う	63.0%
・どちらかというと思わないと思う	18.3%
<u>やめた方がいい(小計)</u>	<u>16.0%</u>
・やどちらかというと思わないと思う	8.3%
・やめた方がいいと思う	7.7%



(2) 救急行政への要望

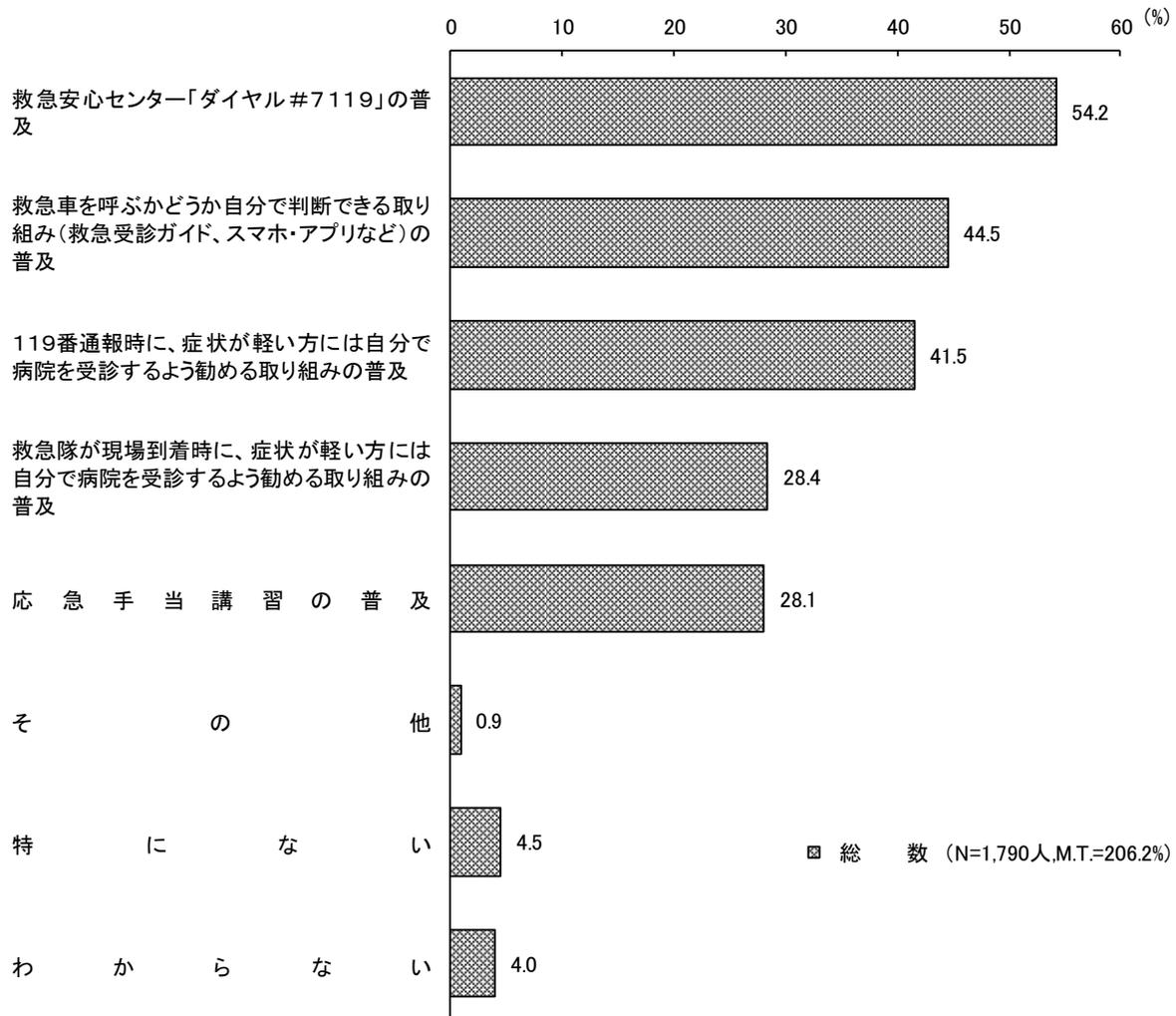
問 18 あなたは、救急行政に関してどのような取り組みに力を入れてほしいと思いますか。
この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位3項目)

29年7月

- ・救急安心センター「ダイヤル#7119」の普及 54.2%
- ・救急車を呼ぶかどうか自分で判断できる取り組み(救急受診ガイド、スマホ・アプリなど)の普及 44.5%
- ・119番通報時に、症状が軽い方には自分で病院を受診するよう勧める取り組みの普及 41.5%

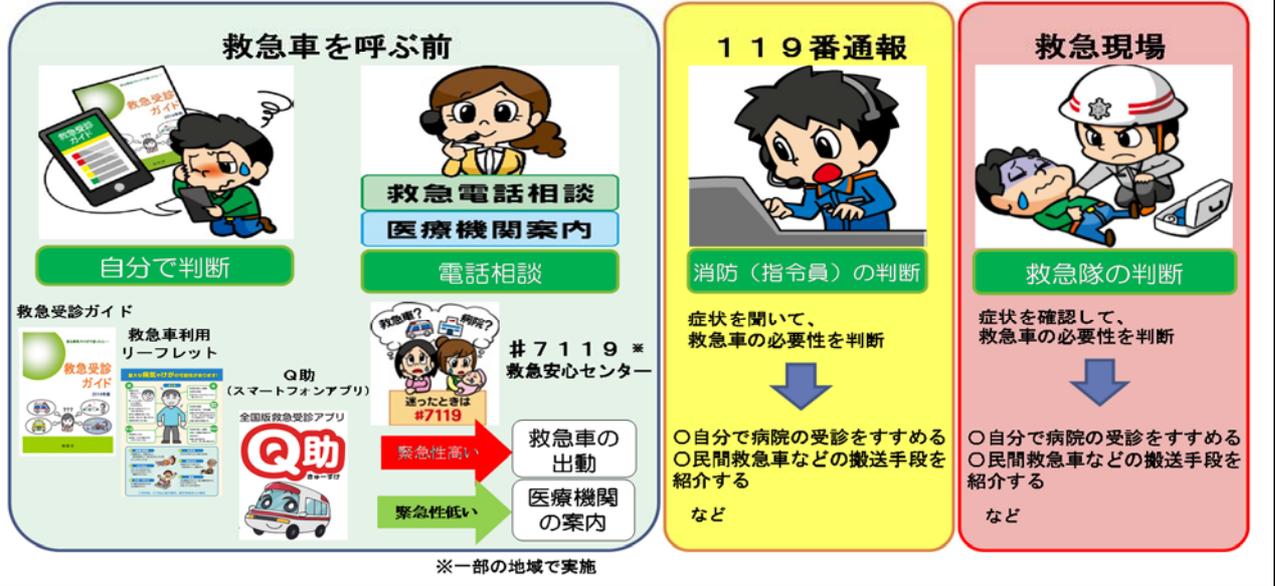
(複数回答)



資料1 救急車の緊急性判断の取り組み

昨年の救急車の出動件数は、全国で621万件と過去最高でした。救急車が現場に到着する時間や病院に収容する時間も長くなっています。

重症な方を少しでも早く病院に搬送して救える命を救うため、症状の軽い方には、救急車でなく自分で病院を受診していただく取り組みを進めています。



資料2 応急手当

突然倒れた方の命を救うためには、そばに居合わせた人がいち早く応急手当を行うことが重要です。

応急手当を行うことで、大切な命が救われます。

心臓マッサージ



人工呼吸



AED



(出典「救急蘇生法の指針2015」)